

研究活動

Research Activities

各研究者ごとの研究活動を[展覧会の企画・構成], [著書], [論文], [翻訳], [エッセイ・作品解説など], [口頭発表・講演など], [その他の活動]の7項目を中心に報告する(研究者名の五十音順)。項目は研究者によって多少の異同がある。また, これは各研究者の美術館内外での主要な研究活動の報告であり, 著作目録のようにあらゆる活動を網羅することを意図してはいない。大項目に絞った報告もある。

河口公夫/Kimio KAWAGUCHI

[保存修復事業]

前庭彫刻免震化工事基本設計ならびに彫刻修復処置プロジェクト:《地獄の門》の処置(1998年7月-99年3月末)

[論文]

“Technical Observation on the Tokyo predella Panels,” in M. Eisenberg, et al., *The “Confraternity Altarpiece” by Mariotto di Nardo: The Coronation of the Virgin and The Life of Saint Stephen*, The National Museum of Western Art, Tokyo, 1998, pp.71-75.(共著)

[研究]

「絵画作品展示・輸送用マイクロクライメイトボックスの開発」:平成10年度文部省科学研究費(基盤研究A-2)

[講演]

「ルーベンスの技法と工房」, プリナストン美術館土曜講座

[その他]

国際会議への参加

“Painting Techniques History, Materials and Studio Practice,” The International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works, 7-11 September 1998, Dublin

“Art & Chimie, La Couleur,” International Congress on Contribution of Chemistry to the Work of Art, Ecole du Louvre, Palais du Louvre, Paris: 16-18 September 1998

喜多崎 親/Chikashi KITAZAKI

[学会発表]

「聖性と写実—ボナの《キリスト》と階級的な身体イメージ」, 美学会東支部例会(於早稲田大学), 1998年9月

[その他]

「ゴヤ, 版画にみる時代と独創」展コーディネーター

「フォッグ美術館所蔵ウインスロップ・コレクション(仮称)展(2002年開催予定)の調査

『国立西洋美術館研究紀要』No.3の編集

早稲田大学第二文学部非常勤講師

連続講座「はじめての美術史」, 豊島区立巢鴨社会教育会館,

1998年11-12月

幸福 輝/Akira KOFUKU

[展覧会の企画・構成]

「イタリアの光—クロード・ロランと理想風景」, 1998年9-12月

[著書]

『イタリアの光—クロード・ロランと理想風景』展カタログ, 1998年9月

[論文]

「クロード・ロランの初期作品と北方的風景表現の伝統」, 『イタリアの光—クロード・ロランと理想風景』展カタログ, pp.175-181/215-219

「頬をつたう涙—ロヒール・ファン・デル・ウェイデンと初期フランドル絵画における感情表現」, 『国立西洋美術館研究紀要』No.3, 1999年3月, pp.5-20

[翻訳]

キース・ロバーツ『ブリューゲル』, 西村書店, 1998年

マルセル・レートリスベルガー「クロード・ロラン—序文」(『イタリアの光—クロード・ロランと理想風景』展カタログ所収)

[講演]

「クロード・ロラン—理想と自然らしさ」, 国立西洋美術館, 1998年11月

日仏美術学会, 朝日カルチャーセンターなどにおけるクロード・ロラン関連の講演

[その他]

玉川大学特別講義(1998年11月)

『国立西洋美術館年報』No.32の編集

「レンブラント, フェルメールとその時代」(2000年開催予定)の準備文化庁招聘外国人研究者(オランダ国立美術史研究所副所長レンデルト・フェルケンブルフ)による講演会の企画(1999年3月)

文部省在外研究(1998年3-6月)

越川倫明/Michiaki KOSHIKAWA

[展覧会の企画・構成]

『エルミタージュ美術館所蔵イタリア・ルネサンス美術展:フィレンツェとヴェネツィア』, 国立西洋美術館, 1999年3-6月開催

[著書]

『エルミタージュ美術館所蔵イタリア・ルネサンス美術展:フィレンツェとヴェネツィア』カタログ, 国立西洋美術館・NHK, 1999年(責任編集, 共著, 共訳)

[論文]

“The Modern Provenance of the Tokyo Predella Panels,” in M. Eisenberg, et al., *The “Confraternity Altarpiece” by Mariotto di Nardo: The Coronation of the Virgin and The Life of Saint Stephen*, The National Museum of Western Art, Tokyo, 1998, pp.67-70(共著)

[Dialogo della pittura di M. Lodovico Dolce, intitolato L’Aretino: 翻訳と注解(3)], 『五浦論叢』4号, 1998年, pp.1-21(共著)

[ブリヂストン美術館所蔵《黄金の子牛の礼拝》: グレゴリオ・ラッザリーニ(1655-1730)へのアトリビューション], 『石橋財団ブリヂストン美術館・石橋美術館館報』46号(1997/1998年刊行), pp.46-55

[ティツィアーノ、トスカーナ人たち, 同時代の芸術批評], 『エルミターージュ美術館所蔵イタリア・ルネサンス美術展: フィレンツェとヴェネツィア』カタログ所収, 国立西洋美術館・NHK, 1999年, pp.55-63/268-273

[翻訳]

アメリカ版画評議会編『紙本作品貸出のためのガイドライン』, 国立西洋美術館, 1998年(共訳)

[エッセイ・作品解説など]

[エル・グレコのイタリア時代], 『地中海学会月報』216号(1999年1月)所収, p.4

[口頭発表・講演など]

“Japanese System for the Sponsorship and Fundraising for Exhibitions,” XVIth Convention of the International Advisory Committee of the Keepers of Graphic Art, 1998年6月, Ottawa, National Gallery of Canadaにおける口頭発表

[エル・グレコのイタリア時代]

ブリヂストン美術館における講演, 1998年11月

[モーセの物語]

ブリヂストン美術館における講演, 1999年1月

[イタリア・ルネサンスの美術]

豊島区民センター/板橋区文化会館における講演(2回), 1999年3月

[その他の活動]

[イタリア中部地震文化財修復支援募金]事務局運営(1997年10月-)

佐藤直樹/Naoki SATO

[論文]

[デューラーの《犀》—写実とエンブレムのあいだ], 『国立西洋美術館研究紀要』No.3, 国立西洋美術館, 1999年3月

[口頭発表・講演など]

代々木ゼミナール造形学校芸術学科コース, 夏期講習会特別公演「学芸員の仕事について」, 1998年8月27日

[その他の活動]

“Colloquium für Fedja Anzelewski zum 80sten,” veranstaltet von der Kupferstichkabinett Berlin, 22. 03. 1999(会議参加)

[記憶された身体](1999年7-8月開催)展の調査・準備

[和紙と西洋版画(仮称)]展(2003年夏開催予定)の調査・準備

国際シンポジウム「The Faces of Skin/皮膚の想像力」(1999年7月16-18日, 国立西洋美術館・ドイツ-日本研究所共催)開催の調査・準備

高階秀爾/Shuji TAKASHINA

[著書]

『近代美術の巨匠たち』(新版), 青土社, 1997年

[論文]

[装飾と動き], 「文学・音楽・演劇」, 「自然主義」, 「市民絵画」, 『バッハ全集』(第6巻pp.156-165, 第12巻pp.172-181, 第4巻pp.160-169, 第10巻pp.182-191), 小学館, 1997年

[日本美術における言葉とイメージ], 『デザインの世界』, サントリーミュージアム, 1997年, pp.9-17

[日本美術院の理念], 『國華』第1234号, 國華社, 1998年, pp.25-27

[藤島武二](再録), 『藤島武二画集』, 日動画廊, 1998年, pp.1-8

[マスターピースと『名物』芸術における価値の創出], 『日本の美学』28号, ぺりかん社, 1998年, pp.121-129

『浪裏をめぐる幻想』, 『近代画説』第7号, 明治美術学会, 1998年, pp.137-141

[ヴィクトリア王朝と明治文芸], 『ラスキン文庫だより』, ラスキンの文庫, 1998年, pp.1-4

[エッセイ・書評など]

[森まゆみ著『鷗外の坂』], 『ていくおふ』No.82, 全日本空輸, 1998年, p.46

[岡倉天心], 読売新聞, 1998年6月13日

[イメージの歌, 造形の詩], 『高柳裕』展カタログ, 青梅市美術館, 1999年, p.91

[前衛芸術のゴットファーザー], 『第14回東京の夏音楽祭'98』フェスティバルマガジン, 1998年, pp.8-9

[天才の才能に立ち会う喜び], 『ミステリアスピカソ—天才の秘密—』, クレストインターナショナル, 1998年, pp.6-7

[芸術家の誕生: 森村泰昌著『踏みはずす美術史』], 『ちくま』No.328, 1998年, pp.6-7

[田中一光と日本文化の最良部分], 『田中一光』展カタログ, 富山県立近代美術館, 1998年, pp.13-15

[日本人と橋], 『文藝春秋』9月号, 1998年, pp.94-95

[面目一新した国立西洋美術館], 『うえの』No.473, 上野のれん会, 1998年, pp.18-20

[クロード・ロランの魅惑の世界], 『イタリアの光—クロード・ロランと理想風景』展カタログ, 国立西洋美術館, 1998年, pp.16-17

[パリを魅了した美の使者], 『美と知のミーム, 資生堂展』カタログ, 1998年, pp.8-9

[田中一光と日本文化](中国語版), 『現代平面設計巨匠 田中一光的設計世界』展カタログ, 1998年, pp.11-12

[光と陰の詩人], 『Y.アーネスト・サトウ写真集』, 講談社, 1998年, pp.8-9

[美の世界を生み出した日仏の実り豊かな対話—日本におけるフランス年Message—], 日本経済新聞, 1998年10月26日

[画家が主人公の作品], 『本読みの達人が選んだ「この3冊」』(丸谷才一編), 毎日新聞社, 1998年, pp.40-41

「序文」,『レオナルド・ダ・ヴィンチ 真理の扉を開く』,創元社,1998年,pp.1-4

「高橋裕子著『イギリス美術』」,『ていくおふ』No.84,全日本空輸株式会社,1998年,p.48

「公共の概念について—公共建築協会30周年に寄せて」,『公共建築協会30年史』,(財)公共建築協会,1998年,p.12

“Preserving Our Modern Heritage,” *JAPAN ECHO*, Vol.25, No.6, 1998, pp.45-46

「マリオ・ブラーツ」,毎日新聞社,1999年1月10日

「版画家ゴヤの近代性」,『ゴヤ版画のみる時代と独創』展カタログ,国立西洋美術館,1998年,p.5

「デザインを知らないデザイナーたち」,『室内』No.530,1999年,p.150

“The Imperial Succession,” *JAPAN ECHO*, Vol.26, No.1, 1999, pp.45-46

“Ikko Tanaka E A Nata Da Cultura Japonesa,” *Design Grafico de Ikko Tanaka*, Mochizuki Printing Co., Ltd, 1999, pp.10-15

「豊かな色彩と時事性」,朝日新聞,1999年2月23日

[監修]

『レオナルド・ダ・ヴィンチ 真理の扉を開く』,創元社,1998年

『ル・コルビュジエと日本』(共編:鈴木博之/三宅理一/太田泰人/高階秀爾),鹿島出版社,1999年

[座談会・対談・インタビュー]

「水の感覚と表現—絵画・文学・思想」(座談会:芳賀徹/佐野みどり/大橋良介/高階秀爾),『日本の美学』27号,ペリかん社,1998年,pp.60-74

「21世紀の文化政策に期待すること」(座談会:水上忠/如月小春/浅尾新一郎/林田英樹/高階秀爾),『文部時報』No.1461,文部省,1998年,pp.10-21

「美術とミステリーは相思相愛」(対談:逢坂剛×高階秀爾),『本の話』8月号,文藝春秋社,1998年8月,pp.70-75

「SHISEIDOと文化」,『花椿』581号,資生堂企業文化事業部,1998年,p.2

「橋と象徴—記憶としての文化・市場」(鼎談:山口昌男/田中優子/高階秀爾),『日本の美学』28号,1998年12月,pp.4-25

「美術品の鑑賞機会の拡大について」(座談会:矢口國男/玉虫敏子/竹本広文/高階秀爾),『文化庁月報』No.364,1999年1月,pp.6-11

「時間,空間,人間をトライアングルとした間主体の眼」(対談:米倉守×高階秀爾),『両洋の眼 21世紀の絵画』,美術年鑑社,1999年2月,pp.7-23

「提言—建築家へ 建築家とのコミュニケーション」,『JIAニュース』3月号,(社)日本建築家協会,1999年3月,pp.2-3

[シンポジウム・講演会]

「北斎のイメージ」,国際北斎会議,小布施町,1998年4月

「黒田清輝と明治の洋画」,「静嘉堂・国宝」展記念講演会,静嘉堂文庫美術館,1998年4月

「日本文化と“もの”」,千葉美術講演会,千葉市美術館,1998年6月

「ヴィクトリア朝美術と明治文芸」,ラスキン連続研究講座,国立教育会館,1998年7月

「経済社会の移り変わり」と日本美術の受容」,経済同友会会員セミナー,東京會館,1998年7月

「パリ芸術世界の魅力」,「ディアギレフ—バレエ・リュスの20世紀」シンポジウム,世田谷パブリックシアター,1998年7月

「バロックの光と闇」,「大原美術館美術講座—人間像の北と南」,大原美術館,1998年8月

「ヨーロッパ絵画の栄光—バロックからロココへ」,「華麗なるハプスブルグ5人の王妃の物語」展講演会,アートホール,1998年8月

「ジェームズ・タレル」展講演会,世田谷美術館,1998年8月

「日本の心 富士の美」展記念講演会,サントリーミュージアム,1998年9月

「トランジション—変貌する社会と美術」,「国際美術評論家連盟日本大会」,スパイラルホール,1998年9月

「文化のポリティクス」,「現代フランスに迫る」,日仏会館,1998年10月

「クロード・ロラン魅惑の風景の設計士」,「イタリアの光—クロード・ロランと理想風景」展記念講演会,国立西洋美術館,1998年10月

「近代芸術の革命—印象派とその時代—」,「ひろしま美術館名品」展記念講演会,ふくやま美術館,1998年10月

「日本絵画の近代—伝統と創造」,「馬頭町所蔵・青木コレクション展 広重と浮世絵 川村清雄と明治美術」展講演会,栃木県立美術館,1998年11月

「東京美術講演会」,鹿島KIビル,1998年11月

「印象派とその時代」,名古屋商工会議所,1998年11月

「日本の色,世界の色」,ロレアル賞連続ワークショップ,東京デザインセンター,1998年11月

「描かれた都市のイメージ」,きゅりあん小ホール,1999年2月

「自由の芸術・芸術の自由」,「ドラクロア《民衆を導く自由の女神》」展記念講演会,東京国立博物館,1999年3月

高橋明也/Akiya TAKAHASHI

[著書]

『ドラクロワ—色彩の饗宴』,1999年,二玄社

[論文]

「ファンタン=ラトゥールと静物画の革新」,『ファンタン=ラトゥール展』カタログ,宇都宮美術館,1998年,pp.67-74(英訳:“Henri Fantin-Latour and the Revolution in Still-Life Painting,” pp.76-81)

[エッセイ・作品解説など]

〈フランス地方ミュージアム巡り〉:(34)「コート・ダジュールの美術館 その3—ビオットからヴァロリス,アンティープへ」,(35)「コート・ダジュールの美術館 その4—ポール・シニャックとサン=トロペ,アノンシアッド美術館」,(36)「コート・ダジュールの美術館 その5—ニース市とその美術館[上]—市立ジュール・シェレ美術館」,(37)「コート・ダジュールの美術館 その6—ニース市とその美術館[中]—マチス美術館」,『Bon Voyage』Nos.78,79,80,81,エール・フランス国営航空会社,1998-99年

新収作品解説「ファンタン=ラトゥール《花と果物,ワイン容れのある静物》」,『国立西洋美術館年報』No.32,1998年

展覧会記録「〈素材と表現—国立西洋美術館の所蔵作品を中心に〉」,『国立西洋美術館年報』No.32,1998年

「ヨーロッパ美術における中近東」/「ドラクロワと北アフリカ」, 展覧会小冊子『旅へのいざない—オスマン帝国を訪れた人々の記録』, 中近東文化センター, 1998年, pp.9-10

[口頭発表・講演など]

講演会「国際都市パリの美術伝統と外国人作家たち」(北海道立函館美術館, 1998年6月27日)

講演会「ヨーロッパ絵画における中近東」(中近東文化センター, 1998年12月5日)

講演会「国立西洋美術館のリニューアルについて」(日本工業クラブ, 1999年3月3日)

[その他の活動]

青山学院女子短期大学非常勤講師(1998年4-9月)

東京芸術大学非常勤講師(1998年10月-1999年3月)

沖縄県立芸術大学非常勤講師(集中講義; 1999年2月)

日仏美術学会例会コメンテーター(1999年2月8日)

富山県立近代美術館「これからの近代美術館」検討委員会委員

「19世紀フランスにおけるスペイン美術の影響—プレ・ジャポニスムとしてのスペイン趣味」(ポーラ財団助成による美術調査研究)

西洋美術館前庭彫刻再設置計画担当; 《地獄の門》保存・修復・免震化工事(免震装置選定委員会委員)

「オルセー美術館展1999—19世紀の夢と現実」準備調査

田中正之/Masayuki TANAKA

[展覧会の企画・構成]

「小企画展 アサヒビール・コレクションの名品—20世紀初頭の人物画—」(会期: 1998年9月15日-1999年3月7日)

[エッセイ, 作品解説]

「人物画の象徴性」

「ジョルジュ・ルオー『貴族的なピエロ』」

「パブロ・ピカソ『肘をつく女(うづくまる女)』」

「アメデオ・モディリアーニ『少女の肖像(ジャンヌ・ユゲット)』」

『アサヒビール・コレクションの名品—20世紀初頭の人物画—』展小冊子

[翻訳]

ユリアン・ハイネン「男とネズミ」, 『ヨーロッパからの8人, カタリーナ・ブリッチュ』, 群馬県立近代美術館, 1998年, pp.22-24.

[その他]

「ピカソ 子供の世界」展(2000年3月開催予定)の調査・準備

「アメリカン・ヒロイズム」展(2001年8月開催予定)の調査・準備

《地獄の門》: 免震化と修復

田邊幹之助/Mikinosuke TANABE

[論文]

『冠のついた袋—宗教改革とドイツの聖堂内装について』, 「バッハ全集10 オルガン曲(2)」小学館, 1999年, pp.124-146

[エッセイ]

『ドイツの聖堂』, 「バッハ全集4 教会カンタータ」, 小学館, 1998年, pp.97-105

[講演]

「中世末期のドイツ彩色木彫」, 朝日カルチャーセンター, 1998年7-8月

[その他の活動]

死の舞踏展(2000年)開催準備。

明治学院大学非常勤講師, 1998年4月-1999年3月

塚田全彦/Masahiko TSUKADA

[保存修復事業]

98年7月-99年3月末

前庭彫刻免震化工事基本設計ならびに彫刻修復処置プロジェクト《地獄の門》の処置

[論文]

「消火器薬剤の美術作品への影響」, 『国立西洋美術館研究紀要』No.3, 1999年3月, pp.33-44

[研究]

「絵画作品展示・輸送用マイクロクライメイトボックスの開発」

平成10年度文部省科学研究費(基盤研究A-2)

[その他]

国際会議参加

“Third International Infrared Users' Group Meeting,” The International Infrared Users' Group, 28-30 May 1998, Winterthur

“Painting Techniques: History, Materials and Studio Practice,” The International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works, 7-11 September 1998, Dublin

“Art & Chimie, La Couleur,” International Congress on Contribution of Chemistry to the Works of Art, Ecole du Louvre, Palais du Louvre, 16-18 September 1998, Paris

「イタリア中部地震文化財修復支援募金」事務局運営(1997年10月-)

寺島洋子/Yoko TERASHIMA

[CD-ROM]

『美術館教育 1969-1994 日本の公立美術館における教育活動18館の記録』(共同編集), CD-ROM(Windows 95), 1998年, トランスアート

[教育普及活動]

'98夏休み子どもプログラム

(1) 体でコミュニケーション 1998年7月23, 28日, 8月4, 11日

(2) 色の不思議 1998年7月24, 31日, 8月7, 14日

ゴヤ展 パンフレット編集 1999年1月

[その他の活動]

「日本の美術館教育の調査研究」, ポーラ美術振興財団平成8年度助成, 1997-98年

'99夏休み子どもプログラムのための調査

波多野宏之/Hiroyuki HATANO

[著書]

『図書館資料利用論 I 印刷物からマルチメディアへ』, 放送大学教育振興会, 1998年, p.105

『報告書 シンポジウム:フランスにおける美術情報の普及と専門教育』(編著), アート・ドキュメンテーション研究会, 1998年, p.81

[CD-ROM]

『博物館・美術館におけるメディア活用法』(アドバイザー), メディア教育開発センター, 1999年, CD-ROM1枚 Windows95/MacOS7.6.1

[論文]

「電子美術館とそれ以前の問題—ドキュメンタリストの立場から—」, 『人文学と情報処理』No.17, 1998年, pp.65-66. (特集 電子博物館構想)

「新たな『イコノテーク』の形成へ向けて—美術館・博物館の考える電子図書館—」, 『人文学と情報処理 別冊1 電子図書館はどうなる』, 1999年, pp.101-110

[口頭発表・講演など]

「電子美術館の可能性と問題点」, 平成10年度筑波大学図書館職員研修会, 1999年1月

「事例報告 博物館・美術館」, マルチメディア時代における情報サービスの進展と著作権に関するフォーラム, 国立民族学博物館, 1999年2月

[その他の活動]

「日仏間美術超高精細画像と多言語通信の研究」(国際コミュニケーション基金助成調査研究 研究代表, 1998年4月—1999年3月)

「カナダ青年国際交流事業『日本—カナダ仮想展覧会』」(日本側コーディネーター, 1998年4月—1999年3月)および「インターネットによる仮想展覧会に関する共同研究」(統括, 1998年4月—1999年3月)

「20世紀における民族誌的映画の分析と分類研究」(国立民族学博物館共同研究, 1998年4月—1999年3月)

「文化変容にかかわる民族誌映像資料の再検証」(科学研究費補助金(国際学術研究, 研究代表国立民族学博物館大森康宏)研究分担者, 1998年4月—1999年3月), 同研究の一環として「映像ネットワークと映像分析の研究」のためフランス, ドイツの研究機関の訪問調査, 1998年11月)

「文化庁平成10年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業による講演会『オランダ美術史研究と情報処理』」(共同企画運営, ヤン・ファン・デル・スタール氏「巨人の肩に乗って……:オンライン美術史情報:ファン・エイク・システムその他のアプローチ」担当, 国立西洋美術館, 1999年3月)

新情報資料室・書庫, 資料コーナー等施設設備の整備

図書資料データ週及入力

アートハイビジョン:主要絵画検索システム利用者アンケート調査(1999年2—3月)

デジタルギャラリー:超高精細画像検索表示システムの構築

国立西洋美術館情報資料懇談会の継続開催

東京学芸大学非常勤講師(1998年4—7月)

放送大学客員教授(1998年7—8月)「図書館資料利用論 I 印刷物からマルチメディアへ」スカイパーフェクトTV 15回放映

慶應義塾大学文学部非常勤講師(1998年9月—1999年3月)

雪山行二/Koji YUKIYANMA

(1998年9月に退職, 1998年10月から1999年3月まで当館客員研究員)

[展覧会の企画・構成]

「ゴヤ, 版画にみる時代と独創」展, 国立西洋美術館, 1999年1月12日—3月7日

[著書]

『ゴヤ, 版画にみる時代と独創』(共編著), 展覧会カタログ(国立西洋美術館), 読売新聞社発行:序論, 作品解説, 作家略歴等執筆, J.ペーガ, N.グレンディニングの論文翻訳

[口頭発表など]

「ゴヤ, 版画にみる時代と独創」展記念シンポジウム, 1999年1月12日, 国立西洋美術館講堂, 展覧会の主旨説明

「ゴヤ, ジャーナリストの眼」, スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会主催研究発表会, 1999年2月20日, 上智大学

[エッセイ・記事など]

「スペイン版画比べ, やっぱゴヤは格好いい!」, 『芸術新潮』, 1999年3月

「ゴヤ, 版画にみる時代と独創」展の紹介, 『読売新聞』, 1999年1月7日

連載「ゴヤと版画」, 『読売新聞』, 1999年2月9日, 11日, 12日, 13日

「『ゴヤ, 版画にみる時代と独創』展によせて」, 『聖教新聞』, 1999年1月19日

同展スライドトーク, 1999年1月22日

[その他の活動]

東京大学文学部非常勤講師(1998年4—9月)

全国美術館会議博物館法検討委員会委員